

赤れんが通信



北海道庁の金昭賢(キム・ソヒョン)国際交流員が、韓国の友好地域との交流事業及び北海道の情報などについて書いたレポートをご紹介します。

今年は例年と違って、9月中旬が過ぎても気温が30℃に近い日々が続いたので、「ここが本当に北海道なのか」と思われるほどでした。「北海道はお盆が過ぎれば涼しくなる」とよく言われますが、これももう昔話のように感じられる一方、今年の秋は残暑の影響で紅葉の色づきも遅くなりました。札幌では例年11月初旬に初雪が観測されます。北海道に限って、春と秋はあっという間に過ぎてしまう季節ですが、今年の秋は特に短くなりそうな予感がします。

上白石小学校訪問講演

JICA世界ふれあいひろば 令和5年度 ハングル講座



8月31日、キム・ソヒョン国際交流員が上白石小学校を訪問しました。JICA(日本国際協力機構)との連携業務で実施された今回の学校訪問では、韓国-カンボジア-日本の3か国の異文化交流が行われました。

小学生たちは「日本の夏」をテーマとしてグループごとに夏祭り、花火大会、夏の食べ物、盆踊りや墓参りなど夏休みに経験した日本の文化を紹介しました。続いて、カンボジア出身の留学生が「カンボジア王国の概要や夏祭りの風景」を、キム・ソヒョン国際交流員からは「韓国の夏と小学生の夏休み生活」を紹介しました。

9月16日、JICA北海道札幌国際交流館では一般市民を対象に異文化交流の場を提供する行事「世界ふれあいひろば2023」が開催されました。

北海道庁国際課からキム・ソヒョン国際交流員(韓国)とアルミ国際交流員(フィンランド)が参加し、自ら企画したプログラムを実施しました。韓国コーナーでは、北海道と友好提携を締結した韓国の4つの地域(釜山広域市、慶尚南道、ソウル特別市、済州特別自治道)を紹介するパネル展示、韓国の習慣や食文化、生活文化などをみんなで学んでみるOXクイズ大会を行いました。

9月26日から2週間、4回にわたりキム・ソヒョン国際交流員による道職員向けの今年度のハングル講座を実施しました。

ここ数年間は、新型コロナウイルスの影響で対面講座の受講生を10人以下に制限したり、オンラインで講座を行うなど、様々な制約がありましたが、日常生活を取り戻した今年度は、コロナ前のように20人以上が参加する語学講座を行うことができました。

授業ではハングルの子音及び母音の発音を覚えて簡単な単語を読み書きしたり、韓国旅行で使える表現を学んだりしました。

北海道マラソン-ソウルマラソン 選手交流



8月27日、約2万人のランナーが札幌市内を走り抜ける「北海道マラソン2023」が開催されました。夏にも比較的涼しい気候のおかげで北海道マラソンは毎年8月末に開催されてきましたが、今年度は大会前日まで札幌市の気温が35℃を超える猛暑が続きました。

北海道マラソンは、友好提携締結地域であるソウル特別市で開催される「ソウルマラソン(東亜マラソン)」と2011年に友好交流協約を結んでおり、選手を相互招待しています。今年度はこれまで新型コロナウイルスで中断されていた選手の交流が4年ぶりに再開され、韓国から選抜された男女選手各1人が北海道マラソンに参加しました。

札幌市民防災センター訪問

北海道では2018年9月6日、胆振地方でマグニチュード7の大地震が発生して山が崩れ、道内全域が停電するなど、甚大な被害に見舞われました。

日本では「防災意識」の向上に努めており、日頃から様々な防災訓練が実施されています。9月は防災月間であり、北海道をはじめ、全国的に防災意識が高まる時期であることから、今回、国際課の国際交流員たちにより「札幌市民防災センター」を見学してきました。この施設では様々な年代やグループを対象とした防災教育や体験が行われます。

▶札幌市民防災センター（白石区所在）



今回の見学では、札幌市で発生し得る都市型災害の状況などを演出した災害バーチャル体験コーナーで3D映像を見た後、暴風体験、煙避難体験、消火体験、地震体験コーナーに立ち寄りしました。3D映像では、札幌市は海に面していないものの、山の近くに住宅街が形成されているため、土砂災害が起きる可能性があり、短時間に大雨が降った場合は下水道の逆流や洪水が発生する恐れがあるので、それに対する備えが必要だということがわかりました。

消火体験コーナーでは、火災に遭った場合、周りに大きな声で火災が起きたことを知らせ、消火器で初期消火をしなければなりません。消火が難しいと判断した時は躊躇なく避難すべきだという説明を聞きました。地震体験コーナーでは「頭を守ること」が重要で、ベッドの周りやドアの付近にある家具が地震で転倒した場合、人が下敷きになったり、避難の妨げにならないよう部屋の中の家具の配置を考え、家具が倒れないように固定する必要があることを学びました。



▲3人の国際交流員が出勤！



▲地震を体験できる部屋



▲さっぽろ防災ハンドブック（日本語版QRコード↑）

札幌市では各世帯に「浸水ハザードマップ」が配布されます。これは地域ごとに災害発生時の被害範囲の予想、自宅から近い避難所の位置などを確認できる地図で、私の家にも今まで何回か届けられました。日本に来たばかりの頃は、紙のマップを製作して配布することは効率が良くないという印象を受けましたが、今は、たまに届いてくるハザードマップは、市民へ災害に対する警戒心を持たせ、日頃からの備えを呼びかける役割をしているのではないかと思います。そして、災害の時は携帯電話の充電やインターネットの使用が困難になるので、印刷物が役立つそうです。



今年、韓国でも「防災バッグ」が話題になったことがありました。もしもの時に必要となる物を入れておく防災リュック(防災用品キット)は、日本では普段から用意するという認識があり、ふるさと納税の返礼品として防災用品を提供する自治体もあります。災害が起きると、食品の確保が困難になります。非常時に備え、普段から食べなれた加工食品を多めに買って置き、食べた分だけ在庫を埋めて非常食を常に備蓄しておく「ローリングストック」方式が推奨されています。数ヶ月～数年間の長期保存が可能で、簡単に食べられる「保存食」の場合、スーパーや雑貨店にも売り場が設けられているほど大衆化されており、種類も豊かです。

北海道を走ってみよう

私はちょっとした好奇心で参加してみた10kmマラソン大会で、ランニングの楽しさや達成感に魅了され、ランニングに入門しました。あれから10年以上経った今も趣味でランニングを続けています。地元のソウルとは違って、札幌には若者たちが集まるランニングクルーの活動がほとんど見えませんが、いつでもどこでも情熱的に走るランナーたちが見かけられます。夏場は外が明るくなる午前4時からジョギングをする人がいる一方、雪が道路の両側に山積みになっている冬場にも吹雪を突き抜けて凍った道を疾走する人もいるので、驚きを隠せません。

「走るためにわざわざ旅行に行くの?」と言われるほど、私もランニングには本気です。特に、初めて訪問する場所で開かれるスポーツイベントに参加することが好きで、旅行を兼ねて色んな国のマラソン大会に参加してきました。地域の賑わいや熱い応援を全身で感じる事ができ、コースを走りながらガイドブックには紹介されていない素敵な場所を見つけることもできるので興味深いです。今回は今まで参加した北海道の代表的なマラソン大会をご紹介しますと思います。

函館マラソン



高低差の激しいコース設定で「日本一過酷なファンラン」と呼ばれる大会です。函館マラソンは毎年7月に開催されてきましたが、昨年は暑さで参加者の途中棄権が相次いだことから、今年は暑さ対策のために6月の最終週に開催されました。

猛暑の中で日陰のないコースをひたすら走るのは大変でしたが、路面電車の線路沿いを走りながら地域の名所に立ち寄ることができて、旅行気分になりました。

函館マラソンは、コース上で参加者に豪華なエイドを提供することでも知られています。特に、36キロ地点の付近では、北海道の特産品である夕張メロンや海鮮丼、塩ラーメンを配っていました。また、完走後には函館牛乳とともに道南地域の名物であるいかめし、がごめ昆布を入れた味噌汁を食べることもできました。

素敵な風景から美味しい食べ物まで、北海道の魅力を感じてみたい方々におすすめしたい大会です。

日本最北端わっかない平和マラソン



9月第1週には稚内市で「日本最北端わっかない平和マラソン」が開催されます。スタート地点である「宗谷岬」は晴れた日にはサハリンが肉眼で見えるほどロシアとの距離が近いです。札幌から宗谷岬までの移動時間はバスで7時間程かかるので、私は大会前日の夜、夜行バスで移動しました。

涼しい気候を期待していましたが、大会当日の気温は27℃でとても暑かったです。更に、97基の風力発電機が回っている地域だけに、強い向かい風が吹き続け、体がなかなか前に進みませんでした。

この大会のフルコースの参加者は700人程度と少ないので、コースがかなり空いていました。左には山、右にはきれいな海が広がるコースを走って、自然を満喫することもできました。

エイドステーションでは、北海道のローカルコンビニである「セイコーマート」のスタッフさんたちがドリンクなどを配って応援しており、地域密着型企业であることが感じられました。

北海道マラソン



北海道マラソンは日本国内で唯一、夏に行われるフルマラソン大会です。東京2020オリンピックのマラソン競技のコースを取り入れており、参加者も約2万人に及ぶので、活気にあふれた雰囲気良かったです。

千歳 JAL 国際マラソン



私はハーフ部門に参加しました。鬱蒼とした森の中を走るコースなので、森林浴をしているようでした。気持ちいい日差しの下で、涼しくて爽やかな6月の空気の味わいながら走ることができて、北海道らしい大会だと思いました。



✓ 赤れんが通信
バックナンバーは
こちら



✓ 北海道庁
国際課
FACEBOOK



✓ 編集者・発行先 総合政策部 国際局 国際課
北海道札幌市中央区北3条西6丁目
TEL : +81-11-231-4111 FAX : +81-11-232-4303